

## 第27回 雨過天晴 ～ 第54回光陵祭 ～

第54回光陵祭は、当初の予定を変更し、9月15日（火）に生徒だけで実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限の配慮をしながらも、光陵祭を実施できた背景には、文化祭実行委員会の様々な工夫がありました。今回は、文化祭実行委員会委員長の2年久保さんに話を伺いました。

*文化祭実行委員としての活動をするきっかけは何ですか。*

中学3年の時に、光陵祭に来て体育館でダンス部の発表を見ました。その時に、実行委員の方たちが、椅子を一つひとつきれいに並べて次の演目に引き継いでいるのを見ました。私自身はその時中学校で文化祭実行委員をしていたのですが、表に見えることしかやっていないなということに気づきました。光陵高校の実行委員は、表に出る部分だけでなく、その土台となる見えないところにも細かい配慮をしていました。それは、人としての在り方も同じだと感じました。これは自分にとって運命的な出会いだと感じ、その時、光陵高校に入学して文化祭実行委員をやると決心しました。

*昨年、1年生の時の文化祭実行委員として活動はどんな感じでしたか。*

昨年は、幹部の一人として、主に体育館の担当として、換気や来場者の体調管理をしました。中学生の時は先生がやってくれていたことを、自分たちで考えて行動するという新しいことへのチャレンジでした。実行委員の1年生たちは、2年生の動きを見て、次は自分たちがつなげていくのだという意識を皆が持っていたと思います。その文化祭を超えよう、新しいことをやろうという意思をもって、私は、今年度実行委員長になりました。

*今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、一時は光陵祭ができないかもしれないという状況だったと思います。その時はどんなことを考えましたか。*

先生から「光陵祭を実施することは、難しいかもしれない。それでも、光陵高校の伝統を何とかつなげたい。君たちも、光陵祭ができる状況を作る努力をしてほしい。」という話があり、落ち込んでいる場合ではない、できることを考えようと思いました。

*そして、制限はあるものの第54回光陵祭を実施することになり、実行委員会の活動が始まりましたね。*

コロナ禍という未知の困難に直面し、できることは限られているのではなく、その中で、自分たちに何ができるかということを考えました。当初の目標は変更せざるを得ませんでした。伝統継承とシステム構築という新たな目標を立てました。

結果的にどちらも達成できたのではないですか。

ありがとうございます。これは決して私だけの力ではなく、いろいろな部署の仲間が、見えるところはもちろん、見えないところでも力を発揮してくれたからだと思います。実行委員のメンバーには、部署を越えて助け合うという精神があります。例えば、今年はアーチ作成がないのですが、装飾系のメンバーも毎日残って、他の部署を手伝っていました。



実行委員会長として何か働きかけをしたのですか？

光陵高校の生徒であり、自ら立候補して文化祭実行委員になっていますから、皆積極的でした。私からは、文化祭の実施が決まる前から、たとえできなくても、次の年につながるようがんばろうと声をかけていました。



実施が決まってからは、予約制という新たな挑戦を皆で絶対成功させよう、そのためには特定の人だけが大変な思いをするのではなく皆で分業しようという話はしていました。また、調整管理という部署が大変な状況だった時には、情報共有を促しました。そうすることで、皆が「仕事を渡すのではなく、もらいにいく」という状況になりました。私はいつも皆にありがとう、という気持ちでした。

「雨過天晴」というテーマはどのような経緯で決まったのですか。



実行委員会で話をしていた時に、あるメンバーが提案をしてくれて、今のコロナ禍を乗り越えていくという意味で、ぴったりだと意見がまとまりました。

当日は、コロナ禍の間は傘をさして晴れるのを待とうというメッセージを込めて、色とりどりの傘を飾りました。



まさしく、傘をさしながら、新たな試みをしましたね。

はい、密にならないようにとか、臨機応変に対応できるようにということを基本にしました。具体的には、各団体の場所に入る人をコントロールするために整理券が有効と考えました。ただし、紙の整理券では受け渡しの感染リスクがある。そこで、フォームを使ったエントリーと抽選、発表・提示などを一括してできるシステムを構築しました。具体的には、各団体で密にならない程度の定員を定めてもらい、それを一覧にして提示しました。期日を決めて、希望のところにエントリーしてもらい、抽選した結果をフィードバックしました。抽選には乱数を使うことで、抽選自体は一瞬で終わりました。こういうスキルを持った1年生が力を発揮してくれたおかげです。抽選結果は、ホームページ上で公開しましたが、さらに

当日券の発行も行いました。基本的には皆がもっているスマホで結果を見ながら行動できるので、全体的に密になることなく、スムーズにいったと思います。

ステージの運営でも、様々な感染対策をしていましたね。



はい、体育館は客席の間を2m離して、何人まで入れることができるか、測量から始めました。当初はフロア全面を客席にしようと考えていたのですが、LMC（軽音楽部）の機材や飛沫感染防止のことを考えると、ステージだけでは収まらないので、フロアの半分までをステージにしました。体育館中央にネットを張り、さらに飛沫防止の透明なシートを設置しました。客席は約100席ほどですが、これも抽選をしました。担当の2年生が、消毒や換気、入場規制など、イベントや劇場などのガイドラインを調べて、感染防止策を考えてくれました。その他にも、出演者の控室の密を避けるための対応もしました。

体育館で鑑賞できる人数が限られてしまうので、当初、インターネット中継も考えました。肖像権の問題など配慮しなければならないことも多いので、今回はリハーサル時に撮影した動画を別室で上映することにしました。

一方、グラウンドにトラックを2台配置し、バンド演奏やダンスなど、野外ステージにしました。屋外とはいえ、密にならないように、観客エリアを指定したり、出演しているLMCに誘導スタッフなどをお願いして、マスクの着用や距離をとることを徹底しました。

開祭式でいつも行っていたPR合戦もいつもどおりにはいかないですよ。

これまでは体育館に全校生徒が集まって行っていました。開祭式は放送を使って校長先生や生徒会長にも協力してもらって行いました。PR合戦については、動画を配信することにしました。整理券のエントリーをする前に見てほしかったので、予め各団体20秒以内という制限を設けてPR動画を撮影し、前日の準備の日に各HRで流しました。プロジェクター等の機材を全クラス分24セット用意するのは大変でしたが、先生方の協力を得て確保することができました。ところが、2棟のネットワークが耐震工事のための引っ越しで使用できないことがわかり、急遽ネットワーク配信から保存メディアを使った方式に切り替えるなど、対応に苦慮した場面もありました。

物事がうまくいかないことはあると思いますが、それをどう乗り越えるかが問われますね。

私たち実行委員会の良さは、いろいろな考え方を持っているメンバーどうしが、批判するのではなく、「あっ、それいいね!」というようにお互いに認め合うこと、お互いの良さに気づくことです。最初は意見がいろいろでも、最終的には皆が納得できるものになっていきました。うまくいかずに何度かあきらめそうになったこともありましたが、皆で何とかできる方策を考えるというスタンスでいましたから、翌日誰かがアイデアを出して

きて方向性が見えてきたという場面もありました。

ホームページについても聞かせてもらえますか。

光陵祭の準備の段階で、何が進んでいて、これからどう進めていくのかを、全校生徒に情報提供するためには、ホームページを作ろうと1年生が提案してくれました。昨年までもホームページを作ってはいたのですが、さらにレベルアップして、「光陵祭だより」と併せて、情報発信をしました。

このホームページは、抽選結果はもちろん、メニューや地図などもあり、内容がとても充実しているなと思いました。デザインもいいし、わかりやすいです。

昨年は、しおりをなくしたりすると情報がなく、本部で問い合わせを受けることもあったのですが、今年は全くありませんでした。歩きスマホが心配でしたが、そういうこともなく、皆さん上手に活用してくれました。また、代々受け継いできた資料をまとめた「光陵祭の歴史」というページもあります。K1グランプリにも、多くの生徒が投票してくれて、判断するに十分な数が集まったと考えて、閉祭式では、自信を持って発表しました。

光陵祭を終えて、思うことはありますか。

全校生徒の皆さんが協力してくれたことに感謝しています。整理券方式を導入しても、各団体の協力がなければスムーズな運用はできないわけですから皆さんの協力には本当に感謝しています。当日は皆、笑顔で楽しかった、と言ってくれたことが本当にうれしかったです。そして、光陵祭が終わり、2週間がたって感染者が出ていないということが本当の意味で成功だと思っています。

また、文化祭実行委員会は、いくつかの新しいことに挑戦しましたが、階段アートのように、継続して続けていることも、確実に実施してきました。

来年の光陵祭の時には、コロナ禍が収まってほしいと思いますが、いずれにしても、今年、取り組んだことを次につなげていってほしいですね。

はい、受け継いでいってほしいと思います。特に、昨年は台風の影響で後夜祭が出来なかったのが、来年こそはと思います。

ところで、久保さんが考える「心やさしき社会のリーダー」のイメージを聞かせてもらえますか。



私の考える「心やさしき社会のリーダー」は、自分の属している組織だけでなく、地域  
というか社会全体が良くなるようなことを考えるリーダーだと思っています。また、いろ  
いろなメンバーの考えていることに耳を傾け、メンバーと一緒に成長していけるリーダ  
ーだと思います。

私は教員になりたいと思っているのですが、強制的に何かをやらせるということではなく、  
いろいろな働きかけをする中で、自分から何かをしたいと思うようなことを探してあげた  
いと思っています。

今回光陵祭を準備する中で、ほとんどすべて私たち実行委員に任せてくれているので  
すが、成功につながる道筋を作ってくれたのは、先生方だなと感じています。そういう先生  
方を尊敬していますし、そういう教員になりたいと思っています。

頼もしいですね。楽しみにしています。今日は素晴らしい話をたくさん聞くことができ  
ました。どうもありがとうございました。